

策定委員会におけるアンケート調査結果

(1)あなたが考える、瑞穂市が今後目指すべき高齢者が住みよい「まち」のイメージはどのようなものですか

まとめのキーワード	安心・安全な環境が整っているまち	健康で暮らせるまち	「生きがい」「ふれあい」があり、楽しく過ごせるまち	共に助け、支え合い、見守るまち	その他
各意見 ふりわけ	<ul style="list-style-type: none"> 市独自のサービスメニューが充実している 移動手段や環境が整備されており、気軽に外出できるまち 多くの高齢者が健康もふくめ、自立して生活できるような環境のある地域社会 安心して自宅で療養できる制度が充実している みんなが住みやすい。安全で安心なまちづくり 多様な生活支援サービスによってできるだけ自立して生活できる 地域と行政の連携ができており、高齢者からの要望などすぐに対応ができて、安心して暮らすことができる 「衣」は医で、近くにホームドクターとなる医院があること、「食」は近くにスーパー・コンビニ等があり食べたい物を自分で買いに行ける、「住」はひとり暮らしでも心配なく暮らしてゆける スーパーや病院が近くにある みずほバスのコースを平等に全町内(市内)に回ってもらいたい 総合病院等、どんな症状でも安心して受診できる医療機関がある 出かけたところへ何時でも行ける脚が確保できること 	<ul style="list-style-type: none"> 寝たきりのお年寄りが一人でも少なくなる みんなが健康、みんなで健康 いきいき、元気な高齢者の社会を目指したい 健康で安心して暮らせる 日中、高齢者は手弁当持参で地域のコミュニティーセンターへ通い、風呂、レクリエーションを楽しむ、多くの人とコミュニケーションを図り、心身の健康づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 明るい元気な気持ちで過ごせるまち 生きる楽しみを持てるまち 高齢者が楽しめる行事がある 高齢者が気軽に集まれる施設がある 交流の場が身近なところにたくさんある 高齢者の方がいつでも歩いて行ける場所で、そこでいろいろな部落での催し物をし、憩いの場を作る 趣味やボランティアなどを生かし交流できる街 現在行っているサロンなどに積極的に参加してもらえるように工夫し、人と人とのつながりを大切にしてゆく 地域、町内会、隣近所で、世代の関係ない付き合いや、会話が必要 	<ul style="list-style-type: none"> みんな(祖父母、子供、孫等)が、共に助け合う「共助の社会」を構築すること 地域住民同士が支えあう地域力のあるまち 高齢者を見守る地域全体の助け合いの輪 独居老人に対する見守り支援が地域ごとにできるまち 独居高齢世帯だけでなく家族と同居の老人に対しても、話し合いの場や学ぶ場があること 社会、地域活動に参加し、社会で地域で家庭で役立つ ひとり暮らしになっても共同で支えあって生活できる場がある 家族のような絆のあるまち 抽象的ですが、孫の年代から子の年代までが、親(高齢者)を敬う雰囲気のあるまち(学校教育の在り方含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ここに住み慣れた多くの人々が、この「まち」に住んでよかったと思える「まち」 認知症に対する理解と知識のあるまち(早期発見が重要) 高齢者だけが住みよい「まち」はありえない。市民皆が住みよい「まち」であるべき

(2)今後、高齢者が住みよいまちを目指すために課題となると考えられる事はありますか

まとめのキーワード	包括的支援のための環境づくり	高齢者が元気でいきいき活躍できるまちづくり	高齢者の安心を支える地域づくり	介護予防への取り組みの充実	その他
各意見 ふりわけ	<ul style="list-style-type: none"> 厚生労働省は24時間対応の在宅サービス強化の方針ですが、介護人材難と、コスト面で支給限度額を増やさないと対応できないと思われる 単身世帯、夫婦のみの世帯、核家族の増加により高齢者を家族のみで支えることが困難になってきている 認知症高齢者や重介護度高齢者を抱える家族等の在宅介護者への支援 配食サービスは、学校給食施設を利用して拡大できないだろうか 市内のバス路線の充実 市独自で、高齢者・要介護者へ、社会福祉士・ケアマネなどの専門職が訪問し、介護保険の申請から利用まできめ細かく説明し、安心してもらう必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> お年寄りの方の「知恵とアイデア」を提供できる場を設ける 世代間交流の促進→啓発(PR)…人口増加につながる 元気だがやることのない高齢者に生きがいをみつけられるような場を提供すること 安全で安心な高齢者のネットワーク作り 老人クラブ等の簡素化と人数制限の検討 高齢者の方々を少しでも家から出ていただき、いつでもみなさんと寛げる場があるといい 高齢者だけの世帯の方が、生活において困ったり、心配になったり、不安を感じる事が、少しでも緩和できること 人と人とのつながりをどの様に作っていくかが問題 年齢に関係なく「あいさつ」の飛び交うまちづくり 経験豊富な高齢者の意見にも耳を傾け、力を借り協力してゆく。互いにできる範囲の役割があり、お互いの気持ちが必要だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の増加にともない、それを支える人材育成(教育) 社会活動に対する高齢者の関心・ニーズがあっても、きっかけや情報の不足などがあり、具体的な活動までは結びつかない 高齢者に関する福祉教育の推進(虐待防止マニュアルの確立) 本人よりも面倒を見る人のための情報提示(パンフレットを作る等) 多くのボランティア活動が必要と思われる 誰もが参加できるボランティアを募集すること 敬老精神の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 予防は大事だが、既に重介護度の認定を受けており、施設入所を希望している人も多い 要支援、要介護認定者だけでなく、非認定者への取り組み 介護予防を幅広く市独自で市民の要望に応じて実施 予防教室の受け皿の整備。予防教室終了後のアフターフォロー体制等 特定高齢者の介護予防に対する意識、理解をどう広めていくか。また、相談機関への周知 認知症の予防のため健全な時から身近にできる予備知識を広めてほしい 生活習慣病と並んで高齢者の低栄養による老化の進行が問題になっている(健康管理について高齢者むけの栄養指導が必要と思われる) 	<ul style="list-style-type: none"> 健康については、年間を通して体力向上できる環境を提供すること。 総合病院の設置 独居、高齢者世帯に対するカバー、独居・高齢者世帯を増やさぬようにする社会システム、教育システムの変革。 医療機関(利便性等)の充実